

# (仮称) 大阪市生物多様性戦略 (案) 骨子

## 第1章 大阪市生物多様性戦略の策定にあたって (本体P1~4)

- 大阪市生物多様性戦略の位置付け (本体 P1~2)  
「生物多様性基本法」第 13 条に基づき、生物多様性国家戦略 2012-2020 を基本として定める生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的計画
- 大阪市生物多様性戦略の計画期間 (本体 P2)  
2050 年までのめざすまちは姿を展望しつつ、計画期間は 2020 年度までの3年間
- 大阪市生物多様性戦略の目標 (本体 P2)  
《2050 年までのめざすまちは姿》  
「生物多様性の恵みを感じるまち※」  
《2020 年度までの目標》  
○ 「愛知目標」や「持続可能な開発目標 (SDGs)」など世界の動きを踏まえた生物多様性の保全を目指します。  
○ 生物多様性の保全のため、市民・環境 NGO/NPO・民間事業者・研究機関・行政とのパートナーシップの仕組みを形成します。  
○ 生物多様性の意味を知っている市民の割合を 50%以上にするともに、自然を身近に感じる市民を増やします。  
■ 大阪市生物多様性戦略の取組みの対象区域 (本体 P2)  
大阪市全域

## 第2章 生物多様性とは (本体P5~16)

■ 生物多様性とは (本体 P6~7)  
生き物はそれぞれに個性があり、つながって生きています。この生き物たちの豊かな「個性」と「つながり」を生物多様性といいます。生物多様性には、「種」、「遺伝子」という3つの多様性があるとされています。

《生態系の多様性》  
森林、河川、干潟など、いろいろなタイプの自然がある。



《種の多様性》  
動植物や細菌等、いろいろなきものがいる。



《遺伝子の多様性》  
同じ種でも異なる遺伝子を持つため、形や模様等の個性がある。



■ 生物多様性がもたらす4つの恵み (本体 P7~11)

《供給サービス》  
私たちが生きていく上で必要な食べ物、衣類、燃料等を提供するはたらき



《調整サービス》  
森林による土砂崩れ防止、洪水防止等、環境を制御し安定させるはたらき



《文化的サービス》  
文化面や精神面において私たちの生活を心豊かにするはたらき



《基盤サービス》  
光合成による酸素供給や土壌の形成等、生命が生存する基盤を提供するはたらき



■ 生物多様性の4つの危機 (本体 P12~14)

開発等人間活動による危機



自然に対する働きかけの縮小による危機



人間により持ち込まれたものによる危機



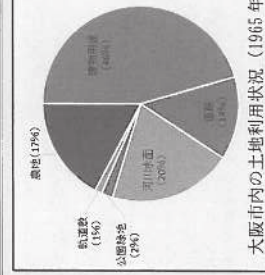
地球環境の変化による危機



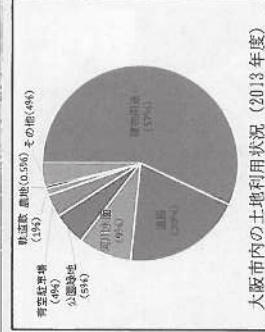
## 第3章 大阪市の生物多様性の状況 (本体P17~25)

### ■ 土地利用の変遷 (本体 P19)

約 50 年間で建物用途と道路が増加し、市街化が進みました。一方で、生き物の生息・生育空間となりうる河川水面や農地は大きく減少しました。



大阪市内の土地利用状況 (1965 年度)



大阪市内の土地利用状況 (2013 年度)

### ■ 市内の貴重な自然 (本体 P20)

ほぼ全域が市街化された大阪市内にも、淀川フンド群やまちなかの社寺林など大切な自然が域されています。



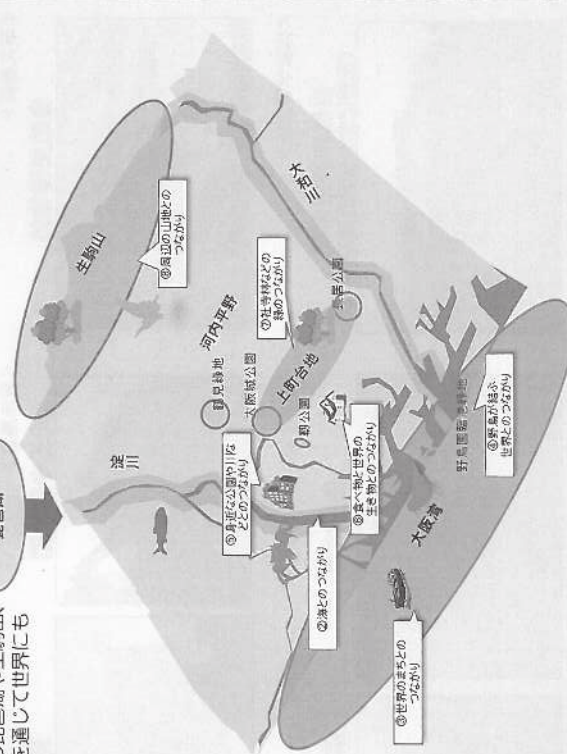
### ■ 新たな生息・生育空間 (本体 P20)

近年の都市整備により、屋上緑化など新たな生息・生育空間が創り出されています。



### ■ 周辺エリア・世界とのつながり (本体 P23)

大阪市内の自然環境は、周辺の琵琶湖や生駒山、大阪湾につながっており、海を通じて世界にもつながっています。



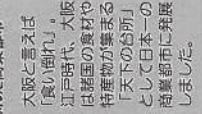
## 第4章 私たちの暮らしと生物多様性の関わり

■大阪の歴史・文化と生物多様性とのつながり (本体 P26~28)

● **なんでなにわになん?**  
~大阪の自然を今に伝える~



● **なにわは食の発信地**  
~樹国の生き物の賑わいに支えられた商業都市~



● **なにわにもあるんやで、伝統野菜**  
~発展するまちを支えた野菜たち~

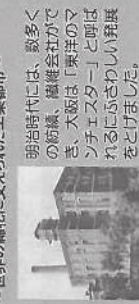


古代~中世 都市を望む高台地に誕生した都 → 近世 日本国中の生き物に支えられた大阪文化

● **そして今...**  
大都市に住む私たちの日々の暮らしは、自然や生き物に支えられています。



● **大阪は「東洋のマンチェスター」や!**  
~世界の棉花に支えられた工業都市~



● **文楽もそうなん!**  
~クジラのヒゲが支えられた伝統芸能~



## (本体 P26~34)

### 課題

① 自然との関わりが低下

② 主に田畑や草地などに生息する生物の減少

③ 消費が生物多様性に及ぼす影響の拡大

④ 都市・地球環境の変化

### ここ数十年の変化

■ 干潟や田畑など湿地の減少

■ 外来生物の侵入

■ 人工的な緑地の増加

■ 都市における大量消費とクローバー化

■ 暮らしと自然の関係の希薄化

生き物にとっての環境の変化

人間社会の変化

### 《取組み》

【基本戦略A】生物多様性の発見と行動の展開  
・方針Ⅰ：身近なところでの生き物・植物の発見  
・方針Ⅱ：自然体験を通じ、身近な都市の魅力としての気付きを促す取組み  
・方針Ⅲ：環境教育、啓発

【基本戦略B】自然空間の保全・創造  
・方針Ⅰ：生物多様性の保全  
・方針Ⅱ：生き物の生息・生育空間である生態系ネットワークの拠点(エリア)の創出  
・方針Ⅲ：生態系ネットワークの形成と広域連携の取組み

【基本戦略C】生物多様性に配慮した生産・消費への変革  
・方針Ⅰ：暮らしと生物多様性の関わりを発信  
・方針Ⅱ：民間事業者の生物多様性の取組みの促進  
・方針Ⅲ：生物多様性に配慮した生活への変革

【基本戦略D】都市・地球環境問題に対する取組み  
・方針Ⅰ：都市環境問題に対する取組み  
・方針Ⅱ：地球温暖化に対する取組み  
・方針Ⅲ：国際貢献

## 第5章 目標達成に向けた取組み

(本体 P35~36)

## (本体 P67~69)

## 第6章 大阪市生物多様性戦略の推進に向けて

○花博記念公園鶴見緑地にある環境活動推進施設(愛称「ななわECCスクエア」)を拠点に、生物多様性に関連する様々な主体が集い、つながりを強化・拡大していくため、「(仮称)生きもんネット大阪」を創設し、既存のネットワークの仕組みを活用しながら、様々な主体と連携・協働します。

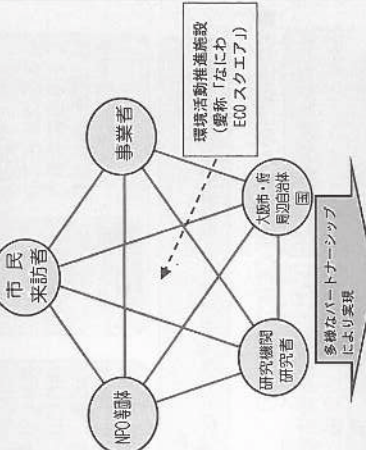
○生物多様性を身近に感じてもらえるよう、各主体が行う取組みの情報を積極的に発信していきます。

○教育の場を積極的に活用し、将来を担う子どもたちへの普及啓発の強化に取り組みます。

○戦略の目標達成状況や取組みの状況について、毎年点検を行い、点検結果は毎年度、大阪市環境審議会に報告を行い、ホームページで公表します。

○生物多様性のモニタリング・評価及び進捗管理の手法や、各主体との連携・協働の仕組みなどについて検討を行い、次期戦略に反映していきます。

《「(仮称)生きもんネット大阪」の連携イメージ》



大阪市で暮らし・働く人・学ぶ人、大阪を訪れる人が生物多様性の恵みを感じる暮らしを実現

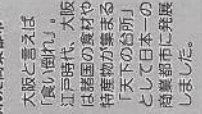
## 第4章 私たちの暮らしと生物多様性の関わり

■大阪の歴史・文化と生物多様性とのつながり (本体 P26~28)

● **なんでなにわになん?**  
~大阪の自然を今に伝える~



● **なにわは食の発信地**  
~樹国の生き物の賑わいに支えられた商業都市~



● **なにわにもあるんやで、伝統野菜**  
~発展するまちを支えた野菜たち~

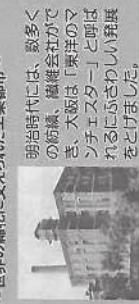


古代~中世 都市を望む高台地に誕生した都 → 近世 日本国中の生き物に支えられた大阪文化

● **そして今...**  
大都市に住む私たちの日々の暮らしは、自然や生き物に支えられています。



● **大阪は「東洋のマンチェスター」や!**  
~世界の棉花に支えられた工業都市~



● **文楽もそうなん!**  
~クジラのヒゲが支えられた伝統芸能~



### 《研究機関》



自然史博物館

天王寺動物園



海遊館



### 《体験学習施設》

自然体験観察園  
(花博記念公園鶴見緑地内)



《自然と触れ合える施設》

住吉大社



新梅田シティ 新・里山

